

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
14	川崎市立塚越中学校	渡辺 修宏

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>○めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的に学び、豊かな心と正しい判断力・実践力を身につけた生徒 <p>○学校教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すこやかな心と身体を育て、思いやりのある人になる 2. 自ら学び、考え、すすんで行動できる人になる 3. 広い視野に立ち、社会に役立つ人になる 	<p>「共感、思いやりをもって全ての人(同僚、生徒、保護者、地域の方々)に接する」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒一人一人を正確に観察し、生徒の心に寄り添い、その生徒にふさわしい適切な指導を丁寧に行っていくように努める。(心の教育の推進) 2. 授業研究を積極的に行い、授業に新しい発想・考え方を取り入れ授業力の向上に努める。(確かな学力を身につける教育の推進) 3. すべての生徒が心身ともに健康で、安心して学習でき、安全な教育環境整備を進める。(健康・安全教育の推進) 4. 地域・学校・生徒・保護者が一丸となって、様々な行事等を通じて、諸活動の充実・活性化につなげる。(開かれた学校づくりへの生徒の参画)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	1. 心の教育の推進 生徒指導の充実	<p>年2回の教育相談を年3回に増やし、一人一人が発言する小さな悩みに気づくよう心がけた。生徒指導部は、本校の生徒指導の基本生活ルール「みんなで守ろう」を定着させるため、生徒指導主任が、朝会で必ず、現状の様子や、改善点、長期休暇での注意点を伝え、時には、地域からの賞賛の声を紹介した。また、組織的な生徒指導体制を作り、連絡・報告・相談のルートを明確化した。生徒指導報告書を作り、どの学年も、一目で分かるように視覚化した。</p>	<p>生徒指導提要にも明記している、発達支持的生徒指導を組織的に行っていくようにしたい。先生が、生徒の声、ふるまい、表情をよく観察して、もし何かSOSを感じれば、学年の生徒指導担当、学年主任に情報を伝え、的確に判断出来るようにする。また、生徒指導報告書を共通の内容事項にしていく。塚越中「みんなで守ろう」を心の成長につなげていくため、生徒に「どうして守れないのか？」を聞いていきたい。</p>
2	読書活動の充実	<p>「朝読書」をカリキュラムとして位置づけ5年目になり、生活の一部として読書活動が定着しつつある。学校生活も落ち着いて過ごすことが出来、心の成長にもつながっている場面が見られた。今年度は、図書委員会が、図書ボランティアの方々の応援のもと、図書室の改革を行った。生徒が、本を手に取りやすくするための、紹介ポップアップを作り、より華やかな、誰もが入りやすい図書室に変えた。課題は、本が嫌いな生徒をどれだけ好きにさせられるか、また、朝読書の時に、担任の先生が、一緒に読書を楽しめるかが問題である。</p>	<p>来年度、塚越Time(読書等)として時間を20分間にする。年間に換算するとかなり間を読書活動にあてることができる。そして、読書から想像力や思考力を養うことができる。また、本から得た知識が、成長の過程で悩み迷ったときの解決策の一つにしてほしい。教職員は、生徒と一緒に本を読み、読書の楽しみを伝えていく。学級文庫を充実させ、子ども達に読ませたい本を図書指導部を中心に揃えていく。学校図書館の利用促進や図書ボランティアの力を借りながら、心を豊かにする読書活動を進めて行く。中原図書館や幸図書館の力を使い、デジタル文庫の活用も視野にいれたい。</p>
3	道徳教育の推進	<p>ローテーション道徳を始めて2年目を迎える。全ての教職員が、道徳の授業を行えるようにした。教師が、同じ資料を何度も行うことによって、自分自身の課題が見つかり、授業改善が図られた。また、生徒の予想発言も推測できる。しかし、道徳の授業が苦手な副担任もいるため、授業の温度差が生まれてしまう。また、日々の業務に謀殺されるため、道徳の授業研究を後回しにする傾向が見られた。</p>	<p>金曜日の1時間目の道徳は、週35時間、必ず行う。行事によって、変更があったときでも、道徳の時間をどこかで必ず戻すようにする。生徒に、道徳で学ぶ内容は、良い成長につながることを理解させる。また、道徳推進教師が、道徳勉強会の時間を確保し、資料の読み合わせ、中心発問の検討を入念に行う。ローテーション道徳の長所を生かしたい。授業後、すぐに授業の振り返りが出来るように学年単位で時間割の工夫をする。</p>

4		あらゆる立場の生徒への「支援教育」と「特別支援教育」の充実	学習室の設置は、不登校生徒の支援に役立っている。支援coの運営と、学習室専任教師が対応に当たっている。校内の不登校生徒の数は減少しているが、学習の補償、質を高めているかが課題である。特別支援教育は、主任のリーダー力で、特別支援の教員同士のチームワークはとて良くなっているが、特別支援級の生徒の個々の資質・能力を高めていることが出来ているが課題である。また、保護者の要望を丁寧に聞き入れ、連絡帳を使いフォローを行っている。	学習室は支援coが運営を行い、生徒に応じて適切な指導を行っていく。年3回以上の教育相談期間を年間計画に入れ、子どものSOSを早めにキャッチする。また、オンラインに頼らず、担当教員が自らの授業を行い、生徒の困り感や学習の質を高めていく。特別支援学級において、サポートノートを通して、保護者と密接に話し合う教育相談を定期的に行っていく。保護者の要望が、細かな内容になっているが、丁寧に聞き、生徒と一緒に育てていく気持ちで行いたい。
5	2. 確かな学力を身につける教育の推進	授業力の向上	社会科が、研究推進校の実践を行った結果、どの教科も「主体性」を意識した研究主題を作った。どの教科も、授業を通して主体性を育てることの大切さが浸透できた。社会科が教科の要としての役割を担っている。また、社会科、英語科を中心にGIGA端末を使った授業の組み立てを行い、生徒にとって基礎力の定着を図れる授業展開ができた。また、学校目標の重点課題として、思考力を伸ばす授業実践を行った。週1回の教科打合せで、この内容を十分に話し合え、授業プランにいかせた。	学習部が中心になり、主体的・対話的な深い学びにつながる校内授業研究会のやり方を明確にする。また、ICTを活用した学び合いの授業を多く取り入れ、教科の枠を超えた検討会を行う。そのために、教科主任が、週1回の各教科会の運営を計画的に行うプランを示せるようにする。また、研究推進を受け続ける教員集団になるような心構えをもつ全体研修も随時行う。「指導と評価の一体化」を進め、より良い授業改革を行っていく。そのためには、評価の研修を十分に取り入れて行きたい。
6		特別活動の推進	体育祭、合唱コンクール、文化祭と大きな行事を通して、生徒会を中心にリーダー育成ができ、生徒たちは自ら進んで考え主体的に取り組めた。夏休みに実施した校内リーダー研修会で、よりリーダーとしての意識改革を目指した。課題は、学級活動に工夫が見られなかった。帰りの会の運営を、生徒が主体的に動けるような教職員の研修が必要だ。	来年度、特別活動の推進を学校運営の要にしていきたい。生徒主体の朝学活、帰りの会の運営、学年運営、異学年での運営を特別活動指導部が企画し指示を出す。生徒会が主体的に動いていき、生徒会役員が主役になって作る学校にしていく。異年齢で行う行事を増やし、コミュニケーション能力を養っていきたい。
7		総合的な学習「平和学習」の推進	学年ごと3年間の学習計画を綿密に立て取り組んだ。文化祭では、全体発表を行い、学んできた成果の場としている。1年生は、平和と非平和を考える話し合い活動を中心に行った。2年生は、食と平和をテーマに学習を進め、JAセラサ川崎や民間食品企業の協力のもと学びを深めた。3年生は、平和を願う歌詞の曲を合唱コンクールの課題曲に選び、十分に意味を理解しながら、調和のとれたハーモニーを奏でた。どの学年も、各教科での学び合いが活発になり、総合で身につけた学びが、横断的な学習へと広がった。しかし、テーマの範囲が広いため、ねらいをしっかりと吟味する必要がある。	塚越中の総合的な学習「平和学習」プランが、学年に任せられている。2年生は、校外学習で平和記念館等を見学して、体験学習と結びつけた授業を行ったが、3年生は、「平和学習」の計画が入念に練られていない時期がある。3年生こそ、世界的情勢を意識した学習を取り組みたい。塚越中学独自の平和学習計画を創り上げてほしい。また、総合的な学習の担当教諭が、学年を超えてよく話し合い、各学年のプランを定着させ、3年間で生徒達が命の重みや平和の尊さを感じることを目指す。
8		小中連携教育	子ども会議や中学校体験授業を通して、小中の交流を深めた。また、教職員同士も、授業参観や異校種体験を行うことで、お互いの困り感を共有できた。課題は、子ども達の文化的な交流を増やし、特別活動の観点で、リーダー達を動かしていきたい。また、小中の教員同士が授業を頻繁に見合う環境づくりが必要である。	9年間を通した繋がりのある教科指導を行う。例えば、英語では、どの程度まで、小学校で学んできているのか、入学前に小学校の先生と打合せを行う。教科に分かれて分科会を開き、課題を出し合う。また、特別活動では、リーダー育成に力をいれる。児童会のリーダーが、生徒会役員で活躍するような流れを作りたい。そのために、小中のリーダーが協力して、一つの行事を行う必要がある。

9	3. 健康・安全教育の推進	健康・安全教育の推進	東日本大震災の経験を十分に生かした、避難訓練、地震訓練や集団下校を実施出来た。その訓練を通して、自他の命を守る事の大切さを教えられた。学校給食では、配膳準備の際の服装指導も清潔・安全の観点から徹底的に指導を行った。また、残食率を示すことにより、栄養バランスの大切さ、感謝の気持ち、命の尊さを学ばせることができた。	避難訓練や地震訓練の回数が少ない。実践により近づけた訓練を実施する。そのためには、より細かい要項が必要である。また、部活動での怪我が多いため、顧問は、運動に適した環境なのかを随時判断し、事故、怪我が起きない環境を、毎日点検する。また、栄養バランスの授業を取り入れ、健康な状態に保つ努力をする。
10	4. 開かれた学校づくりへ生徒の参画	地域との連携	マンションが立ち並ぶ中、地域との連携に苦慮する立地ではあるが、保護者や地域の方々への学校行事の積極的な参加を促すことができた。また、部活動での発表等で、地域の人々と関わる事ができた。課題は、さらに、地域の行事の参加や外部人材を校内に招く事を多く取り入れたかった。コミュニティースクールをもっと活用していく。	オープンスクールを開き、いつでも地域の方や保護者の方が学校に来校できる環境をつくる。その活動を、コミュニティースクールを通して行う。また、部活動の発表の場を地域にも広げ、幅広く、学校の運営や、生徒の活動をアピールし、協力と理解に努める。地域独自のゲストティーチャーを招聘したい。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>生徒が、楽しそうに中学校生活を送っている様子がうかがえる。部活動で、多くの良い結果をだし、先生方の指導の賜物である。学習面に関しては、学校と塾の両立ではなく、学校の勉強で十分に力をつけて欲しい。また、総合的な時間の「平和学習」の取組は、これからも、継続的に行って欲しい。生徒指導に関して、下校時、広がって帰る姿が気になる。さらに、きめ細かな指導が必要である。また、SNSのトラブルが、多く発生している。学校全体で、情報モラル教育を進めていく必要がある。</p>	<p>授業力向上は、社会科を要とし、何事にも主体的な生徒を育てる研究主題を打ち立てた。その観点で、校内授業研を行った。道徳教育では、ローテーション授業が定着し、全員で道徳を行う展開に変化した。同じ資料を3回行うことで、資料の検討に時間をかけることができた。生徒指導の充実では、教育相談研修で進め方を学び、年3回に増やし教育相談を行えた。そこから、希死念慮の疑いのある生徒を助け出すことができた。また、教師が生徒の思いをじっくり聞く環境を作ることで、生徒の困り感をつかむことができ、多くの生徒指導案件が未然に防げた。読書活動は、教職員と生徒と一緒に読書をして、想像力の世界を楽しむ事を課題にあげた。学級文庫の充実、本を手にする環境を作り、読書活動の推進ができた。来年度は、朝読書の時間を20分にして、読書ばなれ、活字離れを防いでいきたい。授業力向上では、どの教科も、ICT活用を充実させ、ICT研修を行い、学び合いを深めていきたい。特別活動は、系統的にクラス運営を行い、コミュニケーション能力の向上に努めたい。</p>